



# 笹小だより No. 6

令和 4年 9月 30日

横浜市立笹野台小学校

## 「朝会台の上の赤いカラーコーン」

～自分たちで考え、判断する～

校長 飯田 雅人

学校では、中休みや昼休みの時間が「外遊び」の日と「内遊び」の日があります。基本的には、天気の良い日は外で元気よく遊ぶ「外遊び」で、雨が降っていたり、雨が降っていても、雨上がりで校庭が水たまり等でぬかるんでいたるときには、教室の中で静かに過ごす「内遊び」になります。一般的にその日が「外遊び」だと子どもたちは喜び、「内遊び」だとちょっとがっかりといったところでしょうか？

困ってしまうのは、今、雨は降っていないのだけれど、校庭の隅の方にはまだ水たまりが残っていて、「外遊び」をしていいのかどうか判断に迷うときです。方法は様々ですが、どの学校でもある一定の約束を決めている場合が多いです。笹野台小学校では、基本的に「内遊び」のときには、朝会台の上に赤いカラーコーンを置いています。教室にいる子どもたちは、窓から校庭をのぞいて、この赤いカラーコーンが朝会台の上に置いてあるかどうかで「外遊び」なのか「内遊び」なのかを知ります。基本的にと書きましたが、雨がザーザーと降っていて、誰の目に見ても「内遊び」に決まっているときには、わざわざ赤いカラーコーンを朝会台の上には置きません。今日は「外遊び」なのか「内遊び」か判断に迷うときには、この赤いカラーコーンが朝会台の上に置かれているかどうかで判断します。こうすることによって、子どもたちは「今日は外遊びしてもいいですか？」とわざわざ職員室に聞きに来なくても済むし、教職員も子どもたちに「今日は外遊びをしていいです。」などの放送を入れる必要がなくなります。

先日、こんな場面がありました。小雨でしたが明らかに雨が降っていました。しかしながらうっかり「内遊び」の印である赤いカラーコーンを朝会台の上に出し忘れてしまったのです。教室の窓から外をのぞいて、赤いカラーコーンが出ていなかったのも、一部の子どもたちは「外遊び」ができると思い、雨が降っている中、校庭で遊び始めました。もちろん、赤いカラーコーンが出ていなかったのも、外で遊んでいる子どもたちは約束を破って遊んでいたわけではありません。でも、教室で過ごしていた多くの子がおかしいと気が付き、「雨が降っているのに外で遊んでいる子がいるよ。」と職員室に教えに来てくれました。もちろん外で遊んでいる子どもたちに「雨が降っているから、教室に入りなさい。」と叫べばそれで済んだ話ですが、それでは、「自分たちは、約束を守って外で遊んでいたのに怒られた。」というイメージが子どもたちに残ってしまいます。子どもたちに育てていかななくてはいけないのは、何事も「怒られるから〇〇をしない。」という思考ではなく、「自分たちで考えて、いけないと判断したから〇〇をやめる。」という思考ではないかと考えます。

私は、やさしい声？でこんな放送を入れました。「外で遊んでいる人たちにお話をします。確かに赤いカラーコーンが出ていませんが、雨が降っています。どうすればいいの自分たちで考えてみましょう。」と。職員室から子どもたちの様子を見てみると、外で遊んでいた子どもたちは、一目散に校舎の中に戻って行きました。子どもたちは一応、怒られることなく、自分たちで判断して正しいと思ったことを行動に移すことができたのです。本当なら、目印の赤いカラーコーンに頼ることなく、いつも自分たちで考えて判断できるようになるとさらによいと思いますが、そこまで子どもたちに求めるのはなかなか難しいですね。